



名寄消防

■名寄消防の概要

■名寄消防署・歴代副管理者(旧風連町長)・歴代署長

■ 風連消防署・歴代署長

■名寄消防団

《団旗・歴代団長(組頭)》

《団本部・本部分団・第1分団・第2分団・第3分団・第4分団》

■風連消防団

《団旗・歴代団長(組頭)》

《団本部・第1分団・第2分団・第3分団・第4分団》

■旧智恵文消防団

《団旗・歴代団長(組頭)》

■外郭団体

《名寄消防署》

竈 消防署風連出張所》



名寄消防の概要



S L 排雪列車「キマロキ」

名寄市は、明治33年（1900年）、現在の曙地区に開拓の鋤がおろされて以来（風連地区は明治32年、旧村名「多寄村」の名称のもとに剣淵村外3カ村戸長役場の管轄に入ったことにより始まる）、米作をはじめ畑作物や野菜等、多種多様な農作物が肥沃な土壌を活かして栽培されており、現在も農業を基盤産業として発展を続けております。又当市は南北に国道40号、東側に国道239号、鉄道は南北に宗谷本線が走っていて古くからの交通の要衝地であり、現在は北海道縦貫自動車道の延伸に向けた「土別剣淵一名寄間」の整備が進められていて救急はもとより、その利便性を最大限に活かして災害時の救助・支援、物資の輸送まで広域防災・物流拠点とする道北圏の中核都市としての役割を担うことが期待されています。



名寄消防署の現況

「旧名寄市」は平成12年に開拓100年を、「旧風連町」は平成11年に100周年を迎えましたが、平成18年3月27日、それぞれの歴史に幕を下ろし、新しい「名寄市」がスタートしました。

それに伴って名寄消防も「名寄消防署」と「名寄消防署風連出張所」として新しい体制をスタートさせました。

現在の名寄の消防力は、「名寄消防署」は4課10係・署員43名、「名寄消防署風連出張所」は4係・所員13名、名寄消防団は団本部を中心に5分団・団員117名、風連消防団は団本部を始め4分団・団員62名で構成されています。



名寄消防署外景



名寄消防署

名寄消防

署長 長幹長
課長 長幹長
主任 長幹長
係長 長幹長

遠藤 豊明
樋口 弘昭
吉野 和人
丸田 秀和
西尾 勇人
河地 祥平
船木 隆史
佐久間 諒
塩見 昌大
西山 佳吾
渡邊 滉

石川 正宏
土田 司
泉 竜一
近藤 啓一
岡林 和彦
松本 拓己
高橋 真史
佐々木 大輔
五十嵐 将樹
篠原 遼人

加藤 久雄
加藤 弘樹
太田 操
佐藤 晋也
大井 康彰
畔木 佑弥
大井 琢也
渡辺 葵
山田 健太
三浦 祥平

伊藤 賢一
加藤 一幸
矢島 和博
藤岡 志尚
黒嶋 勇太
玉城 大輝
坪田 潤生

高橋 正卓
善積 昌史
西櫻 裕規
高橋 怜士
新堂 尚哉



名寄消防署風連出張所

出張所長	渡 辺 稔								
主 幹	齋 藤 且 哲	田 畑 正 樹							
係 長	山 本 正 信	早矢仕 和 也	森 田 貴 之	谷 崎 隆 宏					
係	榎 田 巧 弥	佐 藤 司	吉 田 遼 平	石 山 大 樹					
	高 木 飛 鳥	松 下 拓 磨							



名寄消防署風連出張所の現況

大正2年9月27日に「私設風連青年消防組」を設立したのに始まり、大正、昭和と市街地の発展とともに火災から地域住民の生命、財産を守るために自主的に私設消防組が設置されました。

その後、幾多の組織の改編を経て、昭和46年10月上川北部消防事務組合の設立に伴い、風連町消防団を同組合の「風連消防団」と改称。また、「風連消防署」も同年に設置され、水槽付ポンプ自動車を消防団から署に配置転換し、常備消防としての業務が開始されました。平成18年に風連町と名寄市の合併により、「名寄消防署風連出張所」となり、現在に至っています。



風連出張所外景



上川北部消防事務組合 歴代副管理者 旧風連町長

初代副管理者

中澤 喜一

S46.10.1 ~ S56.4.5

2代副管理者

谷 慶藏

S56.6.30 ~ H9.4.7

3代副管理者

柿川 弘

H9.5.19 ~ H18.3.27



名寄消防署 歴代署長

初代消防署長

石井 久次

S23.12.28 ~ S26.10.7

2代消防署長

山洞 金恵

S26.10.8 ~ S41.3.31

3代消防署長

中村 志朗

S41.4.1 ~ S46.9.30

4代消防署長

杉原 茂雄

S46.10.1 ~ S54.3.31

5代消防署長

佐藤 豊蔵

S54.4.1 ~ S63.3.31

6代消防署長

浜崎 和俊

S63.4.1 ~ H6.3.31

7代消防署長

佐藤 武

H6.4.1 ~ H10.3.31

8代消防署長

上田 直弘

H10.4.1 ~ H13.3.31

9代消防署長

三宅 章

H13.4.1 ~ H16.3.31

10代消防署長

倉本 滝男

H16.4.1 ~ H20.3.31

11代消防署長

野田 利和

H20.4.1 ~ H22.3.31

12代消防署長

牧村 昭信

H22.4.1 ~ H24.3.31

13代消防署長

大野 元博

H24.4.1 ~ H26.3.31

14代消防署長

北村 聡

H26.4.1 ~ H28.3.9

15代消防署長

菊池 剛

H28.4.1 ~ H29.3.31

16代消防署長

佐々木 幸雄

H29.4.1 ~ R3.3.31

17代消防署長

遠藤 豊明

R3.4.1 ~ 現在



旧風連消防署 歴代署長

初代消防署長

佐藤 哲

S46.10.1 ~ S52.5.31

2代消防署長

吉田 武志

S52.6.1 ~ S56.6.17

3代消防署長

高尾 賢一

S56.6.18 ~ H1.9.30

4代消防署長

渡辺 藤雄

H元.10.1 ~ H3.3.31

5代消防署長

橋本 利雄

H3.4.1 ~ H7.12.11

6代消防署長

原田 茂

H7.12.18 ~ H18.3.27

 名寄消防団



名寄消防

 名寄消防団 歴代団長(組頭)

初代組頭
小松良太夫
M37.6.10 ~ M40.8.14

2代組頭
塚田富次
M40.8.15 ~ M41.8.14

3代組頭
白井六三郎
M41.8.15 ~ M42.12.20

4代組頭
河村米三郎
M42.12.21 ~ T3.3.23

5代組頭
名取忠重
T3.3.24 ~ S5.11.21

6代組頭
水上政治
S5.12.4 ~ S8.4.16

7代組頭
角館祥二郎
S8.4.17 ~ S14.3.31
初代警防団長
S14.4.1 ~ S21.5.3

2代警防団長
有山庄太郎
S21.9.7 ~ S22.4.29
初代消防団長
S22.4.30 ~ S23.12.27

2代消防団長

木内 龍雄

S23.12.28 ~ S40.3.29

3代消防団長

後藤 倫

S40.3.30 ~ S42.7.25

4代消防団長

金沢 常雄

S42.8.17 ~ S45.12.16

5代消防団長

谷口 竹男

S46.1.1 ~ S61.3.31

6代消防団長

藤田 東一

S61.4.1 ~ H7.3.31

7代消防団長

山田 満

H7.4.1 ~ H11.3.31

8代消防団長

長谷川 米茂

H11.4.1 ~ H25.3.31

9代消防団長

吉川 明男

H25.4.1 ~ H29.3.31

10代消防団長

宮下 昌樹

H29.4.1 ~ 現在



名寄消防団本部

団 長	副団長	副団長	副団長
宮 下 昌 樹	酒 井 保 郎	今 田 恭 嗣	北 野 智 明

分 団 長	高 橋 伸 典								
副分団長	阿 部 恵 美 子								
部 長	坂 本 美 智 江	黒 川 陽 子							
班 長	柳 澤 佳 代 子	田 中 幸 江	石 戸 谷 幸 枝						
団 員	松 田 晴 美	山 田 弘 美	平 間 志 麻	酒 井 香 織					
	水 間 典 子	吉 田 和 代	山 地 明 美	大 宮 亜 紀					
	松 尾 千 鶴	佐 藤 み ゆ き							

団本部紹介

名寄消防団本部は、団長を含んだ男女21名で構成されています。
災害時に団長、副団長、分団長で現場指揮を統制し被害の軽減と団員の安全管理に努めています。
女性団員は独居老人宅や一般住宅の防火訪問を実施し災害を未然に防ぐ活動に尽力しています。



名寄消防団本部分団

分 団 長	百 武 学									
副分団長	畑 中 憲 一									
部 長	山 添 慶 雄	嶋 田 正 道								
班 長	三 瓶 哲 也	村 山 誠 一	後 藤 純 志	浜 本 宣 幸						
団 員	山 崎 勝									
	佐々木 竜 司	栗 原 健	上 野 敬 典	橋 場 優 企						
	夏 坂 将 弘	河 本 恒 平	大 内 俊 也	米 澤 尚 弘						
	下 浦 雅 弘	谷 口 裕 一	村 瀬 秀 正							

分団紹介

名寄消防団本部分団は、団車両を持たない分団ですが名寄市内すべての災害に出動し、署員の援護部隊としての役割を担っています。

本部分団の定員は25名で、警防班、警備班、伝令班があり災害発生時には、分団長を筆頭に各班が連携した活動を行っています。



名寄消防団第1分団

分 団 長	濱 谷 則 之										
副分団長	鷺 見 操										
部 長	岡 田 守										
班 長	市 川 静 雄	岡 部 隆 充	松 平 泰 裕								
団 員	田 中 智 行	土 居 一 史	種 畑 誠 平	白 川 真 吾							
	幕 田 芳 章	幸 田 弘 亨	濱 谷 純 平	柴 田 颯 斗							
	武 井 美 啓	倉 口 純 人	田 澤 麗 飛								

分団紹介

名寄消防団第1分団は、消防ポンプ自動車1台が配備され定員18名で大通りより東側の管轄を担当しており、防災の要として活躍しています。

平成28年に分団詰所は名寄市に返納し、現在は地域の子供たちが通う児童クラブと供用し地域の身近な防災拠点として管理されています。





名寄消防団第2分団

分団長	沖澤章								
副分団長	長谷川良雄								
部長	小國督								
班長	小池秀昭	鈴木利和	夏坂公男						
団員	湯川孝一	鈴木哲己	杉本拓弥	山本良人					
	宇野成智	山方大輔	高橋哲哉						

分団紹介

名寄消防団第2分団は、消防ポンプ自動車1台が配備され定員18名で市街地の大通り以西、南4丁目以北の管轄を担当しており、防災の要として活躍しています。

分団詰所は消防署に近い位置にあるため、早期に災害を把握し管轄区域へ迅速な出動ができるよう日夜取り組んでいます。





名寄消防団第3分団

分 団 長	杉 澤 雅 博							
副分団長	村 山 聡							
部 長	宮 下 陽 一							
班 長	堀 金 裕 一	堀 金 勝 之	阿 部 潤 司					
団 員	河 本 雄 介	松 下 賢 二	久 保 田 健 太 郎	榎 田 正 樹				
	西 川 准 司	西 牟 田 純 基	森 田 羊 史	川 端 孝 幸				
	野 平 龍 暉	大 沼 宏 也	高 村 博 之					

分団紹介

名寄消防団第3分団は、消防ポンプ自動車1台が配備され定員18名で市街地の大通り以西、南4丁目以南の管轄を担当しており、防災の要として活躍しています。

分団詰所には、名寄市で唯一現存している「纏」が保管されており、現在も先輩団員が築き上げた伝統を守っています。





名寄消防団第4分団

分 団 長	大 石 勝 美																			
副分団長	小 泉 博 志	島 田 敏 朗																		
部 長	東 田 和 也	佐 藤 英 樹																		
班 長	五十嵐 真 吾	北 野 雅 嗣	松 村 一	遠 藤 貴 広																
団 員	越 藤 孝 則	山 田 拓 邦	清 水 亮	山 田 福 山	藤 田 島 南	貴 典 一 佑	広 幸 覚 幾 馬 樹													
	佐 藤 幸 一 司	竹 田 森 将 二 太 撰	島 井 勝 久 俊 明 寛	福 南 山	原 口 本															
	松 下 祐 一 誌	藤 岩 崎 田	松 井 光	山 井 藤																
	及 川 高	村	夏 遠																	
	菊 地																			

分団紹介

名寄消防団第4分団は、小型動力ポンプ付積載車1台と小型動力ポンプ付水槽車1台が配備され定員30名で智恵文地区全域を管轄しており、防災の要として活躍しています。

智恵文地区は市街地から16km離れており、災害発生時は署員よりも早く初動で活動することが多く重要な役割を担っています。





風連消防団

団
旗



名寄消防



風連消防団 歴代団長(組頭)

初代組頭

近藤 豊吉

T2.6 ~ T4.1

(私設風連青年消防組)

2代組頭

高橋 市太郎

T4.1 ~ T5.1

3代組頭

平 忠勝

T5.1 ~ T6.4

(公設多寄消防組)

4代組頭

宮下 長之助

T6.5 ~ T10.1

5代組頭

島田 龍吉

T10.1 ~ T12.1

6代組頭

南澤 桂

T12.1 ~ T13.3

(公設風連消防組)

7代組頭

刀禰 末吉

T13.4 ~ T15.5

8代組頭

野村 弥太郎

T15.8 ~ S3.7

9代組頭

島田 源治郎

S3.8 ~ S5.4

10代組頭

渡邊 儀市

S5.8 ~ S6.9

11代組頭

吉 柳 兼太郎

S6.10 ~ S12.8

12代組頭

今 藤 浅太郎

S13.4 ~ S22.3

(S14 公設風連警防団)

初代団長

佐々木 勝太郎

S22.4 ~ S26.10.11

(S22 風連村消防団)

2代団長

野 川 才 次

S26.10.12 ~ S29.3.13

(S28 風連町消防団)

3代団長

小田桐 藤 雄

S29.3.14 ~ S34.6.17

4代団長

下 村 栄 蔵

S34.9.12 ~ S41.9.20

5代団長

江 端 徳 穂

S41.9.21 ~ S49.9.18

6代団長

東 條 庄 市

S49.9.19 ~ H3.3.31

7代団長

奥 山 利 明

H3.4.1 ~ H11.3.31

8代団長

谷 勝

H11.4.1 ~ H19.3.31

9代団長

山 崎 清 士

H19.4.1 ~ H27.3.31

10代団長

大 野 先 男

H27.4.1 ~ 現在



風連消防団本部

団 長

大 野 先 男

副団長

田 中 廣 勝

名寄消防



風連消防団第1分団

分 団 長	山 崎 謙 一																			
副分団長	藤 井 孝 之																			
部 長	山 崎 正 美	山 崎 直 治																		
班 長	川 原 吉 貴	和 田 英 則	酒 井 弘 治																	
団 員	十 河 啓 太	石 垣 真 吾	田 中 邦 彦	櫻 庭 大																
	伊豆倉 広 之	佐々木 清	大久保 裕 司	田 中 大 聡																
	金 子 隆 博	中 舘 孝 彰	山 崎 桂 輔	梅 坪 由 寛																
	桑 原 直 哉	花 岡 宏 幸	大 出 崇 博	濱 田 啓 史																
	高 山 裕	高 木 慎一郎																		

分団紹介

風連消防団第1分団は、主に市街地区、中央地区を管轄し現在は、25名2部3班で構成され、水槽付消防ポンプ自動車（風雪号）、消防ポンプ自動車（瑞生号）を有し、日夜災害に備えています。





風連消防団第2分団

分 団 長	鎌 上 道 弘								
副分団長	上 手 浩 幸								
班 長	田 渕 雅 俊								
団 員	東 誠	佐 藤 政 昭	藤 島 貴 志	赤 倉 賢 二					
	藤 野 修 一	藤 垣 修	佐 藤 慎 也	筒 井 聖 紀					

分団紹介

風連消防団第2分団は、瑞生、豊里、西風連地区を管轄し、歴史も古く昭和7年私設多寄義勇団消防組に始まる。現在は11名で構成され、小型動力ポンプ付積載車（瑞豊号）を有しています。





風連消防団第3分団

分 団 長	柿 川 博 暁											
副分団長	伊 賀 定 幸											
班 長	伊 賀 敏 彦											
団 員	高 橋 彰	妻 鳥 信 行	西 村 和 浩	上 畑 稔								
	杉 野 敦	菊 池 亮	阿 部 俊 幸	東 野 克 樹								

分団紹介

風連消防団第3分団は、旭、東風連地区を11名の団員で管轄し、小型動力ポンプ付積載車（あさひ号）を有し、地域防災に尽力しています。





風連消防団第4分団

分 団 長	山 崎 吉 晴												
副分団長	若 井 正 洋												
班 長	我 妻 昌 幸												
団 員	前 川 和 夫	佐 藤 文 博	鈴 木 勝 三	金 子 孝 雄									
	山 本 拓 摩	我 妻 秀 隆	金 子 春 夫	川 越 照 彦									
	山 下 年 一	高 橋 純 希											

分団紹介

風連消防団第4分団は、市街地から最も遠隔地の分団で、風連コミュニティーセンターを詰所とし、団員13名で小型動力ポンプ付水槽車（つばさ号）、消防ポンプ自動車（はやぶさ号）を有し、日進地区の災害に対応しています。





旧智恵文消防団



名寄消防



旧智恵文消防団 歴代団長(組頭)

<p>初代組頭</p> <p>森 吉 国 八</p> <p>S2.6 ~ S3.2</p>	<p>2代組頭</p> <p>佐 藤 篤 司</p> <p>S3.2 ~ S6.12</p>	<p>3代組頭</p> <p>大久保 政 吉</p> <p>S6.12 ~ S7.12</p>	<p>4代組頭</p> <p>佐 藤 篤 司</p> <p>S7.12 ~ S14.3.31</p> <p>初代警防団長</p> <p>S14.4.1 ~ S22.4.29</p> <p>初代団長</p> <p>S22.4.30 ~ S25.4</p>
<p>2代団長</p> <p>高 田 隆 寿</p> <p>S25.4 ~ S29.10.15</p>	<p>3代団長</p> <p>高 田 貞 男</p> <p>S29.10.16 ~ S39.3.31</p>	<p>4代団長</p> <p>後 藤 儀 男</p> <p>S39.4.1 ~ S42.5.17</p>	<p>5代団長</p> <p>安 東 主 税</p> <p>S42.5.18 ~ S52.3.31</p>



外郭団体（名寄消防署）

名寄消防後援会

名寄消防後援会は大正9年3月5日に、火災予防思想の普及を図り、併せて円滑なる消防業務の遂行と名寄消防の充実発展のため、その後援をなすことを目的に発足されました。

主な事業として、団員に対する慰労、感謝状・記念品の授与、訓練支援、福利厚生に関する活動をしています。平成10年12月には智恵文消防後援会と合併し、現在は名寄消防後援会と称しています。

会 長	吉 田	肇
副会長	中 村	雅 光
	蓑 輪	健 二
	小 國	喜 次
	平 山	幸 子



上川北部危険物安全協会 名寄支部

昭和50年4月、危険物を取り扱う事業所が、会員相互の親睦と研修を目的に名寄市危険物安全協会を設立。平成4年4月、上川北部消防事務組合を構成する1市4町1村で上川北部危険物安全協会を設立。名称が上川北部危険物安全協会名寄支部となる。現在、84事業所が会員となり災害防止のための研修会、安全大会、危険物取扱者試験事前講習会講師派遣等の活動を行っています。

支 部 長	常 本	照 也
副支部長	吉 田	稔
	長谷川	充 保
	木 賀	義 友
	木 原	俊 行



名寄市防火管理者協会

昭和50年5月1日発足、最初は防火管理者自身の研究と情報交換、更には他都市の活動状況の視察等を目的に市内85事業所の防火管理者が入会しました。会員は正会員と賛助会員があり、その防火対象物の業態より三つの部会に分けて構成されています。現在会員数は63事業所で、主な事業は研修会の開催、秋の火災予防運動への協賛、協会ニュースの発行等を行っています。

会 長	長谷川	充 保
副会長	鶴 卷	朋 光
	和 田	敏 明
	里 見	英 俊



名寄市消防設備協会

平成2年6月、消防設備士及び消防設備点検資格者その他の消防設備業務に携わる者の技術と資質の向上を目的として発足しました。これまで、消防をとりまく環境は大きく変化し、消防法の改正が進み、消防用設備の設置が必要になる施設が大きく増えてきています。現在の会員数は14事業所で、時代の流れに順応できるよう、会員相互の情報交換や親睦を深め、消防設備士としての技量を増やしていけるよう活動しています。

会 長 藤 田 健 慈
副会長 野 田 勲 夫
今 田 恭 嗣



名寄市災害救助活動協力会

名寄市に所在する特殊資機材を保有する事業所をもって組織され、名寄消防署の出動要請により協力会が保有する特殊資機材を活用し、消防が行う災害救助活動を支援し、もって市民の安全確保に協力することを目的として発足する。発足当初は22事業所でスタートし、平成22年6月に名寄市風連災害防止・救助活動協力会との合併を経て、現在は27事業所で各事業を行っています。主な事業内容は、災害救助活動要請に基づく防災救助活動の実施、災害救助活動研修会の実施および会員相互の情報交換などの親睦事業となっています。

会 長 川 原 彰
副会長 藤 原 一 昭
中 舘 克 隆
竹 内 利 行



名寄市防火クラブ協議会

平成7年4月1日に発足。民間防火組織である幼年消防クラブ、少年消防クラブ及び女性防火クラブの全15クラブで構成され、各クラブの育成強化を図り、火災予防思想の普及向上に努めるとともに、地域の火災予防の推進に寄与することを目的に設立されました。火災予防広報活動、研修会、上川北部幼年消防大会や名寄市幼年消防防火フェスティバルの参加、開催等多岐にわたり活動を行っています。

会 長 尾 崎 良 雄
副会長 平 山 幸 子





外郭団体（名寄消防署風連出張所）

風連消防後援会

大正10年（1921）11月5日、市街地の有志により消防後援会が組織されました。

当時の消防組は、消防活動で負傷した組員に対しての保障がなかったので、後援会組織の目的も主としてここにありました。

昭和14年（1939）消防組は警防団に発展的に改称することとなり、後援会の名称も警防団後援会に変わりました。消防団施設の充実、団員の厚生のために惜しみなく援助を与え、警防団活動の潤滑油となりましたが、終戦後、警防団が消防団に改称されると同時に消防団後援会として発足し、更に全町的組織に発展し、現在の役員構成等、行政区から理事として協力をもらい、全町民の支援体制となりました。

後援会は地域住民からの会費によって運営され、これらのほとんどが団の演習や団員の出勤、あるいは団員の表彰等の費用に充てられています。

会 長	松 下 一 也
副会長	小田桐 秀 典
	菊 池 隆





下川消防

■ 下川消防の概要

■ 歴代副管理者(下川町長)

■ 下川消防署・歴代署長

■ 下川消防団

《団旗・歴代団長(組頭)》

《本部分団・第1分団・第2分団》

■ 外郭団体



下川消防の概要



アイスクャンドル

下川町は、上川管内北東部に位置し、町の面積の約9割を占める豊かな森林を林業・林産業という形で地域の基盤として、循環型森林経営、森林バイオマスの活用、森林環境教育など、地域の森林資源を余すことなく大切に有効活用しながら、持続可能な森林づくりに取り組んでいます。

下川町の消防は、大正11年6月に下川消防組が発足、その後一の橋地区、上名寄地区及び鉾山地区にも消防組が発足し、以後、警防団令及び消防団令等による改組を経て、昭和24年に町政施行により下川町消防本部となりました。

昭和46年に上川北部消防事務組合の設立に伴い、広域消防体制が確立され今日に至っています。

現在の下川消防は、消防署15名、消防団は3分団54名で構成され、町民の生命及び財産の保護にあたっています。



上川北部消防事務組合 歴代副管理者 下川町長

初代副管理者

川原 満

S46.10.1 ~ S58.4.30

2代副管理者

原田 四郎

S58.5.31 ~ H11.4.30

3代副管理者

安齋 保

H11.5.1 ~ H27.4.30

4代副管理者

谷 一之

H27.5.1 ~ 現在



下川消防署

署長	土本繁美																			
副署長	伊東英晴																			
主任係長	大野政弘	濱田知道	林清孝																	
係長	塩田晃久	駒津祐二	西村健太																	
主任係	南部慎介	草浦辰徳	今野裕哉																	
	大滝達也	藤澤拓未																		
	大西 励 稔	小 林 達 矢																		



下川消防署の現況

自治体消防が発足し、消防体制の充実強化のため、昭和46年に上川北部消防事務組合が設立、これまでの下川町消防本部は改組され、上川北部消防事務組合下川消防署として新たに発足しました。

現在も消防体制の充実強化のため「火災予防の推進」「消防体制の強化」「救急救助体制の高度化」を図っています。



下川消防署外景



下川消防署 歴代署長

初代消防署長

谷 松 男

S46.10.1 ~ S47.4.30

2代消防署長

金 森 定 男

S47.5.1 ~ S53.12.31

3代消防署長

丹 羽 昭 三

S54.1.1 ~ S60.6.30

4代消防署長

佐 藤 実

S60.7.1 ~ S62.1.9

5代消防署長

根 本 兼 男

S62.1.10 ~ S63.1.10

6代消防署長

川 尻 富 蔵

S63.1.11 ~ H3.11.5

7代消防署長

村 上 登

H3.11.6 ~ H4.2.20

8代消防署長(事務取扱)

宮 沢 秀 利

H4.2.21 ~ H5.12.31

9代消防署長

村 中 辰 男

H6.1.1 ~ H13.3.31

10代消防署長

松 岡 勝 徳

H13.4.1 ~ H15.3.31

11代消防署長

佐 藤 雅 博

H15.4.1 ~ H23.3.31

12代消防署長

椛 澤 克 敏

H23.4.1 ~ H24.3.31

13代消防署長

堀 北 修 司

H24.4.1 ~ H30.3.31

14代消防署長

多 田 淳 浩

H30.4.1 ~ R3.3.31

15代消防署長

土 本 繁 美

R3.4.1 ~ 現在



下川消防団



団
旗



下川消防団 歴代団長(組頭)

初代組頭

山口 茂

T11.6.11 ~ T12.4.30

2代組頭

稲田 梅次郎

T12.5.1 ~ S4.5.25

3代組頭

安原 丈平

S4.6.5 ~ S14.3.31

初代警防団長

S14.4.1 ~ S19.3.18

2代警防団長

木口 芳郎

S19.3.19 ~ S22.7.15

初代消防団長

S22.7.16 ~ S24.12.7

2代消防団長

金子 喜代治

S24.12.8 ~ S36.4.20

3代消防団長

荻谷 秀夫

S36.4.21 ~ H6.3.31

4代消防団長
政 所 孝 夫
H6.4.1 ~ H16.3.31

5代消防団長
牛 角 輝 男
H16.4.1 ~ H20.3.31

6代消防団長
山 本 博 隆
H20.4.1 ~ H24.3.31

7代消防団長
苺 谷 勝 利
H24.4.1 ~ H30.3.31

8代消防団長
野 崎 政 一
H30.4.1 ~ 現在



下川消防団本部分団

団長

野崎 政一

副団長

伊藤 勇一

副団長

大西 功

分団長
副分団長
部長
班長
員

伊筒 阿樋山會弓
藤 淵 部屋崎田野
智 正 美喜子
裕 彬 子美日恵緒

張 神 稻
間 谷 森
潮 智 由
美 美 紀

瀧ヶ平 圭 子
長 澤 亜子加
丹 治 雅 美
河 野 加 奈

分団紹介

下川消防団本部分団は、分団長、副分団長、女性団員12名で組織されています。

女性の優しさや細やかな配慮を活かし、一人暮らしの高齢者宅への防火訪問や広報活動を実施し、災害を未然に防ぐ活動に尽力しています。

また、災害時には消防署や第1、第2分団の活動を後方から支援しています。





下川消防団第2分団

分 団 長	伊 藤 隆							
副分団長	高 垣 一 志							
部 長	今 井 宏							
班 長	武 田 大							
団 員	表 朋 昭	岡 田 浩 二	佐 藤 杏 太 郎	伊 藤 成 人				
	山 田 泰 生	近 藤 啓	間 宮 和 人					

分団紹介

下川消防団第2分団は、小型動力ポンプ付積載車1台を運用し、分団長以下11名で組織され、主に一の橋地区を管轄しています。

分団詰所から離れたところに居住、在勤している団員が多く、災害発生時には出動が大変ですが、団員一人一人が力を合わせ地域の防災に努めています。





外郭団体

下川消防後援会・一の橋消防後援会

大正11年6月、災害時における援助及び協力、併せて円滑なる消防業務の遂行と充実発展を目的に発足しました。昭和22年に下川警防団の改組とともに下川消防団第1分団後援会と称し、同年7月に下川中央火防協会に改称。その後、平成10年に現在の下川消防後援会に改称されました。また、下川消防団第2分団後援会は、現在は一の橋消防後援会に改称しています。

下川消防後援会

会 長 根 本 兼 男
副会長 堺 修 一

一の橋消防後援会

会 長 西 澤 建 治
副会長 栴 田 俊 勝



上川北部危険物安全協会 下川支部

平成3年10月、町内の危険物及び液化石油ガスを取扱う事業所をもって設立。

危険物の取扱いに関する知識及び技術の向上を図り、危険物に起因する災害の発生防止、会員相互の融和親睦等を目的としています。現在、22事業所が会員となり、危険物安全週間中の車両パレードをはじめ、各種研修会の実施、また、危険物事業所における保安体制の強化、さらに地域社会の安全のための活動を行っています。

支 部 長 高 原 智 幸

副支部長 原 田 和 記



下川少年消防クラブ

昭和55年7月、11歳から15歳までの男女48名のクラブ員をもって発足しました。

平成3年には火災予防の普及等の努力が認められ、財団法人北海道消防協会から優良少年消防クラブとして表彰状並びに楯が授与されました。

現在は、小学校3年生から6年生までの18名で、火災予防運動期間中の街頭広報をはじめ、野外研修、放水体験、救急講習等を通じて、火災予防思想の育成を図っています。

幹 事 長 武 石 圭 太

副幹事長 山 田 顕 次





美深消防

■美深消防の概要

■歴代副管理者(美深町長)

■美深消防署・歴代署長

■美深消防団

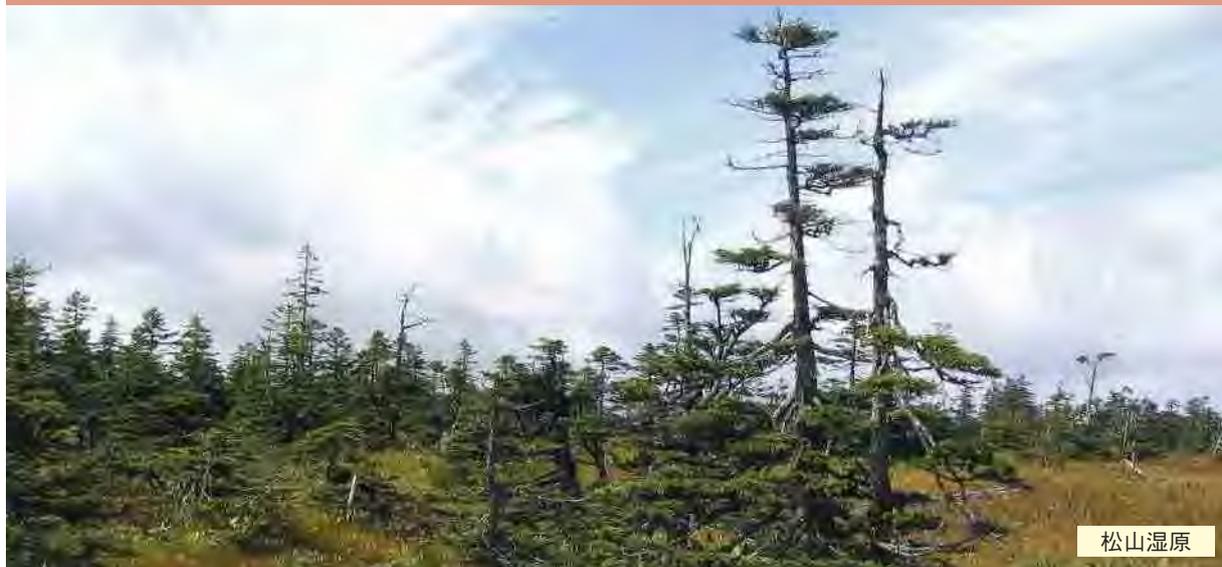
《団旗・歴代団長(組頭)》

《団本部・第1分団・第2分団・第3分団》

■外郭団体



美深消防の概要



松山湿原

美深町は、明治32年美深原野8線（現川西地区）に開拓の鍬がおろされて以来、大正元年の国鉄宗谷線（現宗谷本線）の開通や道路等の整備により、農業を中心とした各種産業が成長し、人口増加と社会発展を遂げてきました。その後過疎化の進行や近年の少子化により人口減少が続いていますが、令和3年度からの第6次美深町総合計画において、まちの将来像を「未来へ続く笑顔あふれるまち 美深」と定め、誰もが安心して快適に暮らせることができるまちを目指して取り組んでおります。

美深消防は、明治44年6月下名寄消防組として始まり、大正9年6月に下名寄村から美深村へ改称と同時に「美深消防組」へと改組しました。更に、大正13年4月には公設恩根内消防組が設置されました。

昭和22年4月に美深消防団、同年8月に恩根内消防団が組織され、昭和45年11月美深消防団機構改革によりそれまでの4部制から2分団制へ移行、昭和46年上川北部消防事務組合設立時に「美深消防署」として常備消防の業務を開始、同時に「上川北部消防事務組合 美深消防団・恩根内消防団」へと改称されました。平成2年3月、恩根内消防団閉団により美深消防団と統合し、恩根内分団へと改称、平成17年4月に第3分団へ改称しました。現在の美深消防は、消防署及び分遣所全17名、消防団は4分団64名で構成され、町民の生命や財産を災害から守るべく防火・防災にあたっています。



上川北部消防事務組合 歴代副管理者 美深町長

初代副管理者

長谷部 秀 見

S46.10.1 ~ S62.4.30

2代副管理者

岩 木 実

S62.6.5 ~ H19.4.30

3代副管理者

山 口 信 夫

H19.5.1 ~ 現在



美深消防署

署長	吉田直茂																		
副署長	酒井博昭																		
主幹	西村直志				佐藤博行														
係長	友兼裕樹				高橋誠生														
主任	伊藤建司				武島仁志														
係	柏木啓人				黒嶋勇希														
	結城翔				荒木亮丞														



美深消防署の現況

昭和46年10月1日上川北部消防事務組合設立時、消防職員12名、美深消防団員70名、恩根内消防団員45名により新たな消防体制が組織され、その後災害件数の増加や大規模化、救急業務の開始等により職員増員が図られました。近年、増加する自然災害や生活様式の変化による複雑多様化する災害、住民の高齢化による救急需要の増大等、各種災害に対応するため計画的な人材育成に努めています。



美深消防署外景



美深消防署 歴代署長

初代消防署長 式部 義明 S46.10.1 ~ S50.7.23	2代消防署長 石崎 勇 S50.7.24 ~ S59.11.30	3代消防署長 孫入道 興 S59.12.1 ~ S63.3.31	4代消防署長 佐藤 保市 S63.4.1 ~ H2.3.31	5代消防署長 在家 光孝 H2.4.1 ~ H4.3.31
6代消防署長 今泉 常夫 H4.4.1 ~ H6.3.31	7代消防署長 築瀬 勇 H6.4.1 ~ H13.9.30	8代消防署長 竹本 富雄 H13.10.1 ~ H20.3.31	9代消防署長 宇野 博幸 H20.4.1 ~ H25.3.31	
10代消防署長 野口 宏 H25.4.1 ~ H26.3.31	11代消防署長 阿部 憲一 H26.4.1 ~ H29.3.31	12代消防署長 西村 直志 H29.4.1 ~ R3.3.31	13代消防署長 吉田 直茂 R3.4.1 ~ 現在	



美深消防団



美深消防団 歴代団長(組頭)

美深消防

初代組頭

相良 千代蔵

M44.6.8 ~ T4.9

2代組頭

木戸 安二

T4.9 ~ T9.6

3代組頭

島田 長太郎

T9.6 ~ T10.1.1

4代組頭

三浦 兼吉

T10.1.2 ~ T14.7.31

5代組頭

進藤 倉吉

T14.8.1 ~ T15.7.14

6代組頭

笠松 与三次郎

T15.7.15 ~ S3.7.4

7代組頭

伊藤 隆策

S3.7.5 ~ S5.3.2

8代組頭

元木 松右エ門

S5.3.3 ~ S10.4.4

2代警防団長
S19.2 ~ S21.3.31

9代組頭

松浦 周太郎

S10.4.5 ~ S14.3.31

初代警防団長
S14.4.1 ~ S19.2

3代警防団長
木戸直好
S21.4.1 ~ S22.3.31
初代団長
S22.4.1 ~ S23.6.10

2代団長
長田雅之助
S23.6.11 ~ S24.12.20

3代団長
佐藤順一
S24.12.21 ~ S26.12.19

4代団長
在家勘藏
S26.12.20 ~ S28.12.29

5代団長
富永勝男
S28.12.30 ~ S40.1.31

6代団長
山口正一
S40.2.1 ~ H6.6.30

7代団長
南坂喜代臣
H6.7.1 ~ H9.1.31

8代団長
竹形貢
H9.2.1 ~ H11.6.30

9代団長
中村良夫
H11.7.1 ~ H18.3.31

10代団長
山田勝敏
H18.4.1 ~ H25.3.31

11代団長
大塚一博
H25.4.1 ~ H30.3.31

12代団長
岩村信雄
H30.4.1 ~ 現在



美深消防団本部

団 長

岩 村 信 雄

副団長

小野寺 輝 男

分 団 長 遠 藤 伸 浩
副分団長 梅 津 善 吉
部 長 渡 邊 幸 子
班 長 佐 藤 栄 総 姉 齒 雪 枝
団 員 芳 賀 紀代美 河 合 里 美 和 田 恵 里 山 北 真奈美

団本部紹介

美深消防団本部は、分団長、副分団長、外7名（うち女性6名）で組織されています。

災害発生時は主として活動団員への後方支援や現場活動にあたります。

女性団員による、一人暮らしや体が不自由な高齢者、後期高齢者世帯への防火訪問や広報活動も実施しており、災害を未然に防ぐ活動に尽力しています。





美深消防団第1分団

分 団 長	齊 藤 和 信								
副分団長	菅 野 優 次								
部 長	山 口 克 己	遠 藤 宏 之							
班 長	君 山 周 一 郎	深 川 一 之	清 水 直 樹	深 川 健 太					
団 員	田 中 仁	川 合 嘉 明	藤 川 雄 二	大 嶋 孝 則					
	前 田 公 嗣	西 村 直 也	田 中 弓 矢						
	馬 場 大 輔	和 田 朋 則	森 岡 信 行						

分団紹介

美深消防団第1分団は、署水槽付消防ポンプ自動車及び令和2年度に更新された消防ポンプ自動車（小型ポンプ積載）2台を担当し、分団長以下18名で活動しています。

ベテランから若手まで幅広い年齢層が在席しており、災害発生時には分団長以下一致団結して即時に集結し災害対応にあたるなど、チームワークの良さを活かして日々防災の任にあたっています。





美深消防団第2分団

分 団 長	澤 田 吉 彰											
副分団長	伊 東 隆 志											
部 長	新 木 雅 洋	吉 田 成 明										
班 長	本 彗 政 一	石 谷 智 規	小 倉 雅 博	和 田 健								
団 員	芳 賀 広 行	伴 井 雅 司	小 栗 卓									
	川 原 秀 雄	山 本 哲 也	上 田 将 大									
	堂 前 宏 徹	岩 崎 加 津 也	荒 川 博 隆									

分団紹介

美深消防団第2分団は、署小型動力ポンプ付水槽車及び消防ポンプ自動車（小型ポンプ積載）1台を担当し、分団長以下17名で活動しています。

多種多様な生業に従事しながらも、団員召集サイレン吹鳴時にはいち早く駆け付け災害現場へ出動するなど、地域を守る消防団員としての使命を果たすため昼夜問わず高い防災意識を持ちながら災害に備えています。





美深消防団第3分団

分 団 長	谷	雄	司									
副分団長	庄	司	村	尾								
部 長	竹	谷	健	一	遠	藤	好	晴				
班 長	大	島	一	夫	安	田	繁	孝	高	附	浩	司
団 員	遠	藤	善	照	近	野		剛	島	維	宏	飛
	増	子	陽	一	古	川	満	之	島	宏	友	荒
	池	田		貢	高	橋	雅	之	山	形	和	磨
												飛
												田
												康
												裕
												卓

分団紹介

美深消防団第3分団は、小型動力ポンプ付水槽車1台及び消防ポンプ自動車(小型ポンプ積載)1台を担当し、分団長以下18名で組織され、主として町郊外の恩根内地区を担当しています。

地域柄一次産業に従事する団員が多く、季節によっては消防団活動との両立に多忙を極めることもありますが、「自分の地域は自分で守る」意識が高く、有事発生の場合は分団員全員の力を結集させ地域住民が安全安心に暮らせるよう日々努めています。





外郭団体

美深町消防後援会

平成6年4月1日、全町一円を区域とする「美深町消防後援会」が結成されました。火災予防や消防活動に地域として援助・後援を続けてきた単独組織でしたが、平成20年3月31日をもって解散、消防後援事業は「美深町自治会連合会」に一切が引き継がれました。

会 長	本 平 武 士
副会長	佐 藤 智 三
	山 形 重 隆

上川北部危険物安全協会 美深支部

平成3年11月美深町危険物安全協会が設立され、平成4年4月に上川北部危険物安全協会設立と同時に同協会美深支部となりました。

1部会11事業所、2部会19事業所、計30事業所により活動を開始し、火災予防啓発運動への協力として移動タンク等による安全パレードへの参加など、積極的な活動に取り組んできました。

また、危険物に関する知識や技術の向上を図ることを目的に毎年支部研修会を開催し、更に、年1回支部会報を発行するなど、危険物災害の防止や会員相互の融和親睦等を目的として現在も積極的に活動しています。現在、28事業所が加盟し、危険物安全週間中にPR用品を配付するなど安全啓発運動を継続し、各事業所における保安体制の強化を図ることにより、地域社会の安全を守るため日々活動に取り組んでいます。

支 部 長	馬 場 基 安
副支部長	安 達 保 義
	川 端 秀 司





中川消防

■中川消防の概要

■歴代副管理者(中川町長)

■中川消防支署・歴代署長・支署長

■中川消防団

《団旗・歴代団長（組頭）》

《団本部・第1部・第2部・第3部・第4部》

■旧佐久消防団

《歴代団長（組頭）》

■外郭団体

中川消防の概要



中川市街空撮

中川町は、北海道の北部、上川総合振興局管内の最北端に位置し、総面積594.87km²、山地84.5%、農用地5.91%、宅地0.17%、東に北見山地、西に天塩山地が走っており、この両山地の中央を流れる天塩川とこれに合流する安平志内川流域に沿って南北に細長く拓けています。

中川消防は、大正3年5月1日に「私設誉平消防組」として発足され、大正13年に誉平市街地一円を管轄する消防組を「公設消防組」とし、昭和3年には佐久地区を一円とする「私設佐久消防組」が発足、昭和5年に「公設消防組」となり、昭和14年に警防団令の公布により「中川村警防団」と改称、昭和22年には「中川村消防団設置条例」が制定され、「中川消防団」「佐久消防団」が設置されました。

昭和47年に上川北部消防事務組合に加入し、「中川消防署」として常備消防の業務が開始され、昭和53年に「中川消防支署」に改称となりました。平成12年に中川消防団と佐久消防団が統合し「中川消防団」となり今日に至っています。

上川北部消防事務組合 歴代副管理者 中川町長

中川消防

初代副管理者
岡田 国一
S47.3.31 ~ S54.4.30

2代副管理者
宮本 弘
S54.6.18 ~ H3.4.30

3代副管理者
松田 政敏
H3.6.5 ~ H11.4.30

4代副管理者
永吉 大洋
H11.5.1 ~ H15.4.30

5代副管理者
亀井 義昭
H15.5.1 ~ H23.4.30

6代副管理者
川口 精雄
H23.5.1 ~ H31.4.30

7代副管理者
石垣 寿聰
H31.5.1 ~ 現在



中川消防支署

支 署 長	金 住 隆								
副支署長	長 村 和 明								
主 幹	塚 本 晴 崇	佐々木 貢	伊 藤 雅 司						
係 長	村 田 孝 文	桑 原 裕 也	徳 家 明 希						
主 任	都 裕 貴								
係	松 岡 大 地	久保田 友 貴	伊 藤 大 輔	中 井 櫻					



中川消防支署の現況

昭和47年に災害等による被害を最小限にとどめるために、災害の早期覚知、早期出動、予防行政の充実強化を図ることが重要とされ、警防業務、予防業務、救急業務等の消防・救急活動を効率的に行うための体制が望まれ、常備消防として中川消防署が設置されました。しかし、常備化が進展した今日においても、地域の消防防災に担う消防団の役割は依然として重要とされており、消防は複雑多様化された災害にも的確に対応できることが求められています。



中川消防支署外景



中川消防支署 歴代署長・支署長

初代消防署長

酒井 歳 詞

S47.4.1 ~ S51.5.31

2代消防署長(事務取扱)

宮 本 弘

S51.6.1 ~ S52.12.31

3代消防署長

酒 井 一 行

S53.1.1 ~ S53.3.31

2代消防支署長

浅 野 正

S56.4.1 ~ S59.3.31

初代消防支署長

S53.4.1 ~ S56.3.31

3代消防支署長

高 木 久 男

S59.4.1 ~ H6.3.31

4代消防支署長

石 井 一 則

H6.4.1 ~ H12.3.31

5代消防支署長

亀 島 伸 一

H12.4.1 ~ H14.3.31

6代消防支署長

鎌 塚 一 成

H14.4.1 ~ H15.3.31

7代消防支署長(事務取扱)

古 市 明 文

H15.4.1 ~ H15.6.1

8代消防支署長(事務取扱)

遠 藤 義 勝

H15.6.2 ~ H15.6.9

9代消防支署長

佐 藤 弘 基

H15.6.10 ~ H16.4.30

10代消防支署長

木 村 光 男

H16.5.1 ~ H26.3.31

11代消防支署長

宮 川 享

H26.4.1 ~ H29.3.31

12代消防支署長

渡 邊 雅 弘

H29.4.1 ~ R3.3.31

13代消防支署長

金 住 隆

R3.4.1 ~ 現在



中川消防団



団旗



中川消防団 歴代団長(組頭)

初代組頭

佐藤賢造

T13.5.1 ~ S24.3.0

5代組頭

S9.5.1 ~ S12.2.8

初代警防団長

S14.4.1 ~ S21.8.31

2代組頭

山中勇一

S2.5.1 ~ S4.4.30

3代組頭

吉田安太郎

S4.5.1 ~ S8.4.30

4代組頭

松岡作次郎

S8.5.1 ~ S9.4.30

6代組頭

今津峯吉

S12.2.9 ~ S14.3.31

2代警防団長

S21.9.1 ~ S22.6.30

初代消防団長

S22.7.1 ~ S25.7.14

2代消防団長

福島達雄

S25.7.15 ~ S30.7.14

3代消防団長

佐々木拓三

S30.7.15 ~ S34.7.14

4代消防団長

吉田善造

S34.7.15 ~ S38.7.26

5代消防団長

遠藤義美

S38.7.27 ~ S42.7.9

6代消防団長

笹森正雄

S42.7.10 ~ S46.9.6

7代消防団長

尾形留次

S46.9.7 ~ S56.1.11

8代消防団長

菅野真助

S56.1.12 ~ S57.3.31

9代消防団長

大須賀鐵美

S57.4.1 ~ S61.3.31

10代消防団長

横山芳男

S61.4.1 ~ H6.3.31

11代消防団長

佐々木修三

H6.4.1 ~ H10.3.31

12代消防団長

今野紀男

H10.4.6 ~ H18.4.5

13代消防団長

佐藤輝雄

H18.4.6 ~ H23.5.31

14代消防団長

吉川英一

H23.6.1 ~ 現在



中川消防団本部

団長

吉川 英一

副団長

藤森 豊

副団長

佐々木 英和

部長 菊地 広幸
副部長 遠藤 香代子
団員 齊藤 佐奈江 高橋 真砂美 島津 弘美 田中 洋子
北野 萌 島津 望華

団本部紹介

中川消防団は平成12年に佐久消防団と統合、平成26年に当時の分団制から部制へと組織改編し、副団長2名体制となりました。

中川消防団本部は、団長、副団長、部長、女性団員の11名で構成され、女性団員は、災害および訓練時には各部へ配属となり、男性団員同様の活動を実施しています。また、高齢者宅や一般住宅の防火訪問を実施し災害を未然に防ぐ活動に尽力しています。





中川消防団第1部

部	長	高橋	崇									
班	長	皆川	正好									
団	員	遠藤	晴幸	梅津	陽佑	若山	真一	田中	克明			
		中井	健太郎	最上	浩二	早坂	克章	菊田	健司郎			
		佃	拓浩									

部紹介

中川消防団第1部は部長、班長、団員9名により構成され、消防ポンプ自動車1台を保有しています。

第1部の車両は昭和62年に導入され、平成26年には北海道消防操法訓練大会出場車両としても活躍しました。





中川消防団第2部

部 班 団	長	河瀬光秋										
	長	木村秀和										
	員	遠藤拓真	椿本勝博	吉田達也	鳴海輝							
		日置友幸	植本満	下村章浩	千葉亘							
		遠藤悠登										

部紹介

中川消防団第2部は部長、班長、団員9名により構成され、小型動力ポンプ付積載車1台を保有しています。

防火水槽などの公設水利がない地域の火災出動において、小型動力ポンプを利用し河川などから水利を確保する重要な役割を担っています。

団員は、普段の生活においても常に河川の水利状況を把握し、万一の災害に備えています。





中川消防団第3部

部 班 団	長	齊 藤 守 生							
	長	立 岡 規 史							
	員	齊 藤 慎 英	小 川 雅 明	熊 谷 徹 弥	荒 屋 敷 義 美				
		佐 藤 大 輔	土 田 健 寛	峯 田 佳 祐	齊 藤 友 佑				
		丸 田 敬 仁							

部紹介

中川消防団第3部は部長、班長、団員9名により構成され、消防ポンプ自動車1台を保有しています。

第3部の車両は、昭和59年に林野火災などの狭隘な道にも対応できる4輪駆動式の車両として導入されました。

団員は、火災出動は勿論、自然災害や特殊災害にも対応するため、部長を中心に様々な訓練を計画し定期訓練を実施しています。





中川消防団第4部

部 班 団	長	野々村	眞						
	長	加藤	文崇						
	員	鈴木	英樹	植村	哲也	丹羽	力也	服部	一雄
		黄木	創一	山本	龍哉	平川	直人	吉岡	駿
		頼成	健一	河瀬	基弘				

部紹介

中川消防団第4部は部長、班長、団員10名により構成され、水槽付消防ポンプ自動車1台を保有しています。

第4部の車両は昭和61年に佐久消防団へ導入されましたが、平成12年の団統合により中川消防団へ配置となりました。

火災時は、水槽を有する車両として火点直近に部署することも多く、中川消防団の第1線車として活用されています。





旧佐久消防団

団
旗



旧佐久消防団 歴代団長(組頭)

初代組頭 藤田松太郎 S5.6.17 ~ S14.3.31	初代警防団長 佐藤賢造 S14.4.1 ~ S21.8.31	2代警防団長 今津峯吉 S21.9.1 ~ S22.6.30	初代消防団長 菊田重広 S22.7.1 ~ S24.8.31	2代消防団長 吉田栄造 S24.9.1 ~ S28.12.6
			4代消防団長 S38.9.1 ~ S40.12.26	
3代消防団長 下村常信 S28.12.7 ~ S38.8.31	5代消防団長 石原清松 S40.12.27 ~ S49.5.17	6代消防団長 佐々木吉夫 S49.5.18 ~ S53.4.30	7代消防団長 日置邦夫 S53.5.1 ~ H12.3.31	



外郭団体

中川町消防後援会

発足年月日は不明であるが、公設消防組時代から組織されていました。地域住民の生命・財産を守る消防団の労を報いようと地元有志により設立、消防職・団員の慰労・顕彰親睦等が行われてきたが、平成12年4月1日の中川消防団と佐久消防団の統合に合わせて後援会も統合となり、現在では火災予防思想の普及啓発を図ると共に、中川消防団の活動の万全を期すため物心両面の後援を行っています。

会 長 今 野 紀 男
副会長 戸 井 宇 一

上川北部危険物安全協会 中川支部

中川町の危険物取扱事業所と危険物取扱免状を取得する町民が、会員相互の融和親睦と危険物取扱いに関する知識及び技術の向上を図り、危険物に起因する災害防止に努め、危険物関係事業の振興発展と社会公共の福祉の増進を目的に、平成3年9月20日、21事業所と41名の個人会員により設立。

現在は上川北部危険物安全協会の支部として、10事業所と39名の個人会員で組織され、研修会や「危険物安全週間」で危険物事故防止の啓発活動を実施しています。

支部長 渡 邊 博 紀



中川女性防火クラブ

平成5年4月30日、中川町に在住する婦人をもって組織し、主として家庭における火災予防の普及徹底並びに防火思想の向上を図り、併せて婦人の火災科学教育に寄与することを目的に結成。

結成時は中川町連合婦人会会員195名で組織され、現在では中川町婦人会60名の会員が住宅用火災警報器の普及活動や普通救命講習の受講等、地域の安全な社会作りに貢献しています。

会 長 中 野 英 子



中川町幼児センター幼年消防クラブ

幼年に消防研修を行い、火に対する正しいしつけを身に付けさせ、園及び各家庭からの火災の減少を図ると共に、将来、人命を尊重し、財産の保全を図る社会人としての基礎を築くことを目的に平成5年4月28日中川幼稚園児29名で結成されました。

平成19年度からは中川町幼児センターの幼児・保育園児で組織され、現在は児童42名が毎年「防火の誓い」を宣誓し、避難訓練や消防署体験を通して防火の心を育てています。

■ 会 長 播 敏 彦 ■



佐久自主防災会

平成26年4月1日、中川消防団組織改編により第2分団が閉団、消防団車両を中川消防支署へ配置したことで、佐久地区町内会が中心となり有志を集い「佐久自主防災会」を結成、小型動力ポンプ1台を保有し佐久地区の防災活動にあたっています。

■ 会 長 長 屋 一 昭 ■





音威子府消防

■ 音威子府消防の概要

■ 歴代副管理者(音威子府村長)

■ 音威子府消防支署・歴代支署長

■ 音威子府消防団

《団旗・歴代団長(組頭)》

《団本部・第1分団・第2分団》

■ 旧咲来消防団

《団旗・歴代団長(組頭)》

■ 外郭団体



音威子府消防の概要



おといねっぶ美術工芸高等学校生徒作品

音威子府村は上川管内の北端に位置し、東西22.2キロメートル、南北に18.6キロメートル、総面積275.64平方メートルであり、そのうち約86%が山林となっています。また、村内を道内第2の長流天塩川が貫通し、国道40号線と国道275号線が縦断している狭隘な盆地的地形でもあります。

音威子府村の消防は、大正時代に音威子府と咲来に消防組が発足したのが始まりであり、発足当時は両消防組に腕用ポンプ1台を所持しているのみであり、その後、昭和47年1月31日に上川北部消防事務組合に加入し、同年4月1日に音威子府消防支署を設置し常備消防として始動しています。さらに、昭和52年に日本赤十字社より救急自動車の貸与を受け、救急業務を開始しました。

現在の音威子府消防は、音威子府消防団と咲来消防団が平成7年4月に統合、平成23年10月には女性消防団員が4名入団し、消防支署12名、消防団27名、水槽付消防ポンプ自動車3台、小型動力ポンプ付積載車1台、救急自動車1台、指揮車1台、水難救助艇1艘の消防力を有し、村民の生命と財産の保護にあたっています。



上川北部消防事務組合 歴代副管理者 音威子府村長

初代副管理者	2代副管理者	3代副管理者	4代管理者	5代管理者
山田 栄	中原 彰	宇佐見 秀明	千見寺 正幸	佐近 勝
S47.3.31 ~ S54.4.30	S54.6.18 ~ H3.4.30	H3.6.5 ~ H15.4.30	H15.5.1 ~ H23.4.30	H23.5.1 ~ 現在



音威子府消防支署 歴代支署長

初代消防支署長 宇佐見 秀明 S47.4.1 ~ S54.5.31	2代消防支署長 渡辺 外明 S54.6.1 ~ S58.5.9	3代消防支署長 宇佐見 保正 S58.5.10 ~ S62.6.2	4代消防支署長 下口 由彦 S62.6.3 ~ S62.9.30	5代消防支署長 中西 義秋 S62.10.1 ~ H元.8.9
---	---------------------------------------	---	--	---------------------------------------

6代消防支署長 大森 洋一 H18.10 ~ H7.5.31	7代消防支署長 藤吉 秀明 H7.6.1 ~ H10.10.31	8代消防支署長 金 敬 康 H10.11.1 ~ H13.3.31	9代消防支署長 成 田 悟 H13.4.1 ~ H15.6.30
		10代消防支署長 H15.7.1 ~ H18.3.31	

11代消防支署長 大竹 政雄 H18.4.1 ~ H25.3.31	12代消防支署長 石田 康幸 H25.4.1 ~ H28.3.31	13代消防支署長 菊池 聡 H28.4.1 ~ R3.3.31	14代消防支署長 上野 孝広 R3.4.1 ~ 現在
---	---	---------------------------------------	----------------------------------



音威子府消防団



音威子府消防団 歴代団長(組頭)

初代組頭
中村 善之助
 T11.5.27 ~ S14.2.26
 2代警防団長
 S17.8.10 ~ S22.7.27
 初代消防団長
 S22.7.28 ~ S23.6.3

初代警防団長
石川 修治
 S14.2.27 ~ S17.8.9

2代消防団長
千見寺 亘
 S23.6.4 ~ S36.3.31

3代消防団長
西野 真咲
 S36.4.1 ~ S40.9.14

4代消防団長
藤原 信次郎
 S40.9.15 ~ S50.6.10

5代消防団長

畠山直一

S50.6.11 ~ S51.6.20

6代消防団長

渡辺正祐

S51.6.21 ~ S57.5.10

7代消防団長

宇佐見政市

S57.5.11 ~ S61.5.27

8代消防団長

中村善二

S61.5.28 ~ H10.4.30

9代消防団長

千見寺徳幸

H10.5.1 ~ H12.3.31

10代消防団長

矢野正治

H12.4.1 ~ H15.4.30

11代消防団長

阿部洋

H15.5.1 ~ H31.3.31

12代消防団長

立川政俊

H31.4.1 ~ 現在



音威子府消防団本部

団長

立川 政俊

副団長

辻本 博美



音威子府消防団第1分団

分団長

相田 貞一

副分団長

桑村 清

班長

丹 義光 大竹 雅人

団員

横山 貴志 小西 広太 木津 雄平 小西 雄大

佐々木 美里 寺島 徹 山崎 敦子 佐藤 志穂

秋山 博行 西山 亮太 中澤 彩音 新山 昌俊

分団紹介

音威子府消防団第1分団は、水槽付消防ポンプ自動車1台、小型動力ポンプ付積載車1台が配置され、16名で地域防災の要として活躍しています。現在は、女性消防団員が配置されきめ細やかな防災活動を行っています。





音威子府消防団第2分団

分団長	永井	満					
副分団長	長野	稔	弘				
班長	菅原	昭					
団員	金山	美雪	安田	裕樹	三國	航	石田
	東頭	明彦					晶三

分団紹介

音威子府消防団第2分団は、水槽付消防ポンプ自動車1台、小型ポンプ1台が配置され、8名で防災に尽力しています。日々の訓練・機械器具点検に励み、地域住民に高い評価を受けています。





旧咲来消防団



旧咲来消防団 歴代団長(組頭)

初代組頭
塚田 喜之次郎
 年代不明

2代組頭
藤原 為市
 年代不明

3代組頭
小 家 善 七
 年代不明

写真なし

4代組頭
熊 谷 太 郎
 年代不明

5代組頭
谷 川 篤 太 郎
 年代不明
 初代警防団長
 S17.8 ~ S22.7

初代消防団長
虫 野 春 松
 S22.7.28 ~ S25.1.11

2代消防団長

松井忠夫

S25.1.12 ~ S27.2.23

3代消防団長

湯川清

S27.2.24 ~ S30.9.10

4代消防団長

千見寺正次

S30.9.13 ~ S40.8.27

5代消防団長

松井順士

S40.9.1 ~ S62.9.30

6代消防団長

斉藤清男

S62.11.9 ~ H5.10.31

7代消防団長

寺坂博明

H5.11.1 ~ H7.3.31



外郭団体

音威子府村消防後援会

音威子府村消防後援会は、音威子府消防団と咲来消防団が統合されたことにより、平成9年4月1日に両消防後援会が統合し発足しました。

会員は村内に居住するすべての住民で、15名の理事で運営されています。消防団活動の万全を期すため、物心両面の協力を図ることを目的とし、出動時における援助・協力・士気の高揚と親睦のための事業を行い消防団の陰の力となり、大いに貢献し現在に至っています。

会 長 成 田 悟 副会長 大 竹 政 美 大 竹 政 雄



上川北部危険物安全協会 音威子府支部

音威子府支部は平成7年9月17日に発足し、会員相互の親睦と危険物取扱いに関する知識及び技術の向上を図り、危険物に起因する災害の発生防止に努め、危険物関係事業の振興発展と公共の福祉の増進に寄与することを目的とします。

会員は、村内における危険物の製造所、貯蔵所、取扱所の所有者（管理責任者を含む）及び危険物取扱者免状取得者で、21名・13事業所で3部会を構成し現在に至っています。

支 部 長 出 町 孝 行 副支部長 千見寺 恒 昭

